

増刊号

広報わらび

施政方針表明全文

平成22年第1回蕨市議会定例会



4 月号 No.703

発行：蕨市役所
蕨市中央5丁目14番15号
☎048-432-3200

URL：http://www.city.warabi.saitama.jp/
メール：hisho@city.warabi.saitama.jp



▲平成22年第1回蕨市議会定例会

の着実な推進を図ることで、私が掲げたマニフェストは、安全安心、子育て支援、健康づくり、元氣な蕨づくりなど、市民の皆さんの多様な切実な願いにこたえらるるとともに、長引く経済不況と人口減少社会の到来、地方自治体の厳しい財政状況、更には、本格的な地方分権の推進など、時代が大きく変化するなかで、大型開発などハード事業優先から市民生活を支えるソフト事業への転換、地方分権時代を生き抜く地域力の発揮と協働型のまちづくりの推進、土地開発公社の債務の解消をはじめとする市財政の健全化と持続可能な行財政の確立など、日本一のコンプクトシティ・蕨の未来を見据えた改革を進めるものでもあります。マニフェストの進捗状況につきましては、昨年6月の時点で、実施及び着手が、78%に達したことを広報などでご報告申し上げましたが、平成22年度におきましても、子ども医療費無料化の拡大や小・中学校の耐震化、防犯灯の増設、蕨駅東口のエレベーター設置など、引き続き、着実に推進してまいります。

第2は、マニフェストの推進を図りながらも、市財政の健全化を進め、両立させることです。

私が市長に就任した平成19年度の末時点で、特別会計や土地開発公社なども含めた蕨市の借金総額は、約355億円に達しておりましたが、この2年間、私自身の市長給与の30

%削減や職員数の抑制などによる人件費の削減、高い金利の市債の低利への借り換え、更には、中央第一土地区画整理や西口再開発など大規模な都市計画事業の見直しなど、財政健全化の努力を強め、蕨市の借金総額を14億円程度削減することができました。

平成22年度予算案におきましても、マニフェストに基づく新規事業をはじめ、さまざまな施策を実施しながらも、引き続き、経費削減を進め、市の借金総額は5億円以上削減できる見通しであります。

また、土地開発公社の73億円に上る債務は、前市政の最大の負の遺産ともいえますが、その健全化に向けて、今議会でご提案している平成21年度補正予算において、南町3丁目の土地約150坪を5億5995万7000円で買い戻す予算も提案しております。平成22年度も、引き続き、財政状況を踏まえながら、健全化の努力を続けてまいります。

さて、第3は、市制50周年で示された蕨の優れた地域力を生かした市民との協働をいっそう推進し、コンパクトシティ・蕨のよさを最大限に発揮したまちづくりを推進していくことです。

市制50周年は、昨年4月、公募によるキャッチフレーズの決定や市民投票によるシンボルマークの決定、苗木市と合わせて開催したオープニングセレモニーでスタートし、NHKラジオ体操などのイベントや11月



蕨市の輝く未来に向け 熱き情熱で市政を運営

市が1年間の行政を進めるための予算を審議する平成22年第1回蕨市議会定例会が、2月24日から3月23日までの28日間にわたって開かれました。この4月の増刊号では、議会初日によりたかひでお頼高英雄市長が表明した今年度の施政方針全文をご紹介します。

あつたか市政の 更なる充実と発展へ

本日、ここに、平成22年第1回蕨市議会定例会を招集申し上げましたところ、議員各位には、公私ともたいへんお忙しいなか、ご参集を賜り厚くお礼を申し上げます。

今定例会は、平成22年度の当初予算をはじめとする重要な案件をご審議いただくこととなりますが、この際、私がこれからの市政運営に臨む基本的な考え方や新年度予算の編成方針、更には予算の概要と主な事業について申し上げ、議員各位並びに市民の皆さんのご理解とご協力をお願いする所です。

さて、今日の日本経済は、一昨年のリーマンショック以来の景気の低迷が続くなか、失業率が5%台で推移するなどの深刻な雇用情勢、個人消費の低迷、企業倒産の増加、デフレ経済の進行など依然として厳しい状況にあります。GDPは回復基調



◀議会初日に施政方針表明する頼高市長

にあると発表されていますが、生活実感には程遠いものです。

こうした事態を打開するためには、政府による内需主導型の経済対策、とりわけ、雇用の確保と中小企業への支援、社会保障をはじめとする暮らしの安心の確保が求められておりますが、同時に、市民に最も身近な存在である地方自治体の役割も、ますます重要なものとなっております。

私は、昨年の施政方針において、「今こそ、政治・行政が総力を挙げて、市民の暮らしを守り抜くべきときである」と申し上げ、この1年間、そうした立場で市政運営を行ってまいりましたが、市民生活や市内企業の経営が一層厳しさを増しているだけに、今まさに、市民の暮らしを支える「あつたか市政」の充実、発展が求められているとの思いを強くしており、引き続き、そのために全力を尽くす決意であります。

市政運営を進める 3つの基本姿勢

こうした状況にあつて、私は、次の3つの基本姿勢に基づいて市政運営を進めてまいりたいと考えております。

第1は、引き続き、日本一の「あつたか市政」を目指すマニフェスト

1日の記念式典、子ども宣言の制定、コミュニティ委員会による記念事業、そして、市民団体の皆さんによる市制50周年の冠事業など、50周年にふさわしく、すばらしい事業として展開されてまいりました。

私は、日本全体が、不景気などの影響もあり、なにかと暗い話題が多いなかで、蕨市では、50周年事業を通じて新たな活気が生まれてきたと感じており、市民の皆さんに心から感謝申し上げたいと思います。市制50周年事業は、蕨市民公園で毎年行われている「桜まつり」に合わせ、3月28日の日曜日にクロージングセレモニーを開催し、閉じる予定です。

また、この度、50周年事業の一環として、蕨生まれ蕨育ちで、ミュージシャンとして活躍されている「ジ・アルフィー」の高見沢俊彦さんが、50周年を迎えた蕨のために、新しいキャラクターを作ってくださいました。日ごろから絵やデザインにも素養のある高見沢さんが、蕨市のために描いたのは、繁栄の象徴でもあるブタをモチーフに、実にかわいらしい羽の生えた、眠っているブタ「エンジェル・わらぶー」、「幸せの眠りブタ」です。これまでのマスコットである「ワラビー君」に新たに仲間ができましたので、今後は、「ワラビー君」とこの「わらぶー」がいっしょに蕨のPR活動に活躍してもらおうと思っています。当面は、「わらぶー君」をプリントしたクリアファイル



▲蕨市出身のTHE ALFEEの高見沢俊彦さんが作成した「エンジェル・わらぶー」

ルを市内全小・中学生に配布するとともに、小さな縫いぐるみや「わらぶーTシャツ」を作成してまいります。さて、私は、こうした50周年事業を通じて、なによりも実感したことは、蕨のコミュニティの豊かさ、まちづくりの原動力となっている市民の皆さんの市民力のすばらしさです。地方分権の進展のなかで、私は、単に行政だけでなく、そこに住む市民の皆さんの力を含めた地域の総力、地域力が問われる時代になっていくと考えております。

そこで、蕨の優れた地域力を生かし、これまで以上に、市民と行政が対等のパートナーとして協働し、ともにまちづくりを進めていくための指針となるプランを策定いたします。また、各コミュニティ委員会で実施された50周年事業は、どれも、地域力のすばらしさを発揮したものでありましたが、22年度につきましても、引き続き、支援してまいります。

くらしの安心と未来への希望 平成22年度予算編成

さて、以上、申し上げた基本的な姿勢に基づき、編成した平成22年度予算案であります。今日の深刻な不況に対する緊急経済対策として、国の臨時交付金も活用して、21年度補正予算において公共事業の前倒しを行うことを予定しており、21年度補正予算と22年度当初予算を連続したものとして、市政運営を進めていく予定であります。そして、その特徴は「くらしの安心と未来への希望」です。防犯対策や防災対策、健康づくり、介護、医療の充実、更には、緊急経済対策など、市民生活全般にわたる安心のために全力を尽くすとともに、次代を担う子どもたちの医療費無料化を中学校卒業まで拡大することや、市独自の35人程度学級の推進など、未来を見通した子育て支援、教育の思い切った充実、地域力を生かした協働型のまちづくりのため、のしくみづくり、子どもたちに借金のツケを回さない財政の健全化など、未来への希望を見据えた予算編成となっております。

緊急経済対策につきましては、先ほど申し上げましたとおり、国の第二次補正で計上された「きめ細かな経済対策臨時交付金」や「安全・安心な学校づくり交付金」などを活用し、21年度補正予算において、学校や保育園、公民館など身近な公共施設

に対する補助金の動向について、必要な情報収集を行うこととあります。こうした検討のなかで、最大の課題である「市負担の大幅な削減」につきましましては、1、駅前広場の拡張は必要最小限に抑えること、2、第2・第3工区を一体的に整備することにより既存の市有地の効果的な活用を図ること、3、7番街区を参考にした市場動向を反映させた工事費の削減や補助金の低減を行うこと、4、公共施設の縮減を目指すとした「公共施設再整備・再配置の方針」に基づき過度の公共施設を整備しないこと、などの見直しの手法が考えられることが整理されました。そこで、平成22年度は、こうした見直しの大きな前提条件となる駅前広場の都市計画の変更に向けての交通量調査を行うなど、引き続き「事業成立性」の検証を進めるために、市としての役割を果たしてまいりたいと考えております。

また、国や県の市街地再開発に対する補助金の今後の見直しにつきましては、不透明な部分もあつてまいります。更には、権利者の皆さんの意向や機運にも、じゅうぶ人目を向けてまいりたいと考えております。同時に、この事業は、市政全体にかかわる問題でもあることから、事業見直しの検討過程で、必要に応じて、市民の皆さんの声を広く聞く機会も作っていきたくと考えております。

次に、中央第一地区のまちづくりにつきましましては、昨年3月、これまでの土地区画整理事業の手法から、都市計画による新たなまちづくりを転換していくとの見直しの方向性をご報告させていただきましたが、その後、地区計画制度を活用した新たなまちづくりに向けて、懇談会の開催や意向調査の実施などを通して、権利者の皆さんからご意見を伺ってまいりました。

こうした皆さんの声を生かしながら、中央第一地区の将来像として、エコ・コンパクトシティを目指す「まちづくり方針案」を作成し、昨年11月の全体住民説明会において、権利者の皆さんにご説明申し上げたところであります。



▲蕨駅西口近くの土地開発公社の土地

また、国や県の市街地再開発に対する補助金の今後の見直しにつきましては、不透明な部分もあつてまいります。更には、権利者の皆さんの意向や機運にも、じゅうぶ人目を向けてまいりたいと考えております。同時に、この事業は、市政全体にかかわる問題でもあることから、事業見直しの検討過程で、必要に応じて、市民の皆さんの声を広く聞く機会も作っていきたくと考えております。

次に、中央第一地区のまちづくりにつきましましては、昨年3月、これまでの土地区画整理事業の手法から、都市計画による新たなまちづくりを転換していくとの見直しの方向性をご報告させていただきましたが、その後、地区計画制度を活用した新たなまちづくりに向けて、懇談会の開催や意向調査の実施などを通して、権利者の皆さんからご意見を伺ってまいりました。

こうした皆さんの声を生かしながら、中央第一地区の将来像として、エコ・コンパクトシティを目指す「まちづくり方針案」を作成し、昨年11月の全体住民説明会において、権利者の皆さんにご説明申し上げたところであります。

更に、本年2月には、「まちづくり方針案」に基づいた具体的な整備計画の作成に向けて、沿道商業地区と住宅地区の2つのブロックに分けて

計画を踏まえ、地方交付税と臨時財政対策債の合計額を5億1000万円の増額としたのははじめ、歳出では、子ども手当の創設で社会保障費などの経費を含めた経常的経費が11億円以上増加するものの、駅西口再開発事業が完了することに伴い、8億円程度の減額を見込まれることから、一般会計の予算規模は、前年度当初予算と比べ2億5000万円多い、201億3000万円となりました。7つの特別会計の予算総額は146億6700万円、病院・水道の企業会計の合計額は44億642万8000円であり、以上のすべてを合わせた蕨市全体の予算総額は392億342万8000円となりました。

まちの魅力に磨きをかける 3つの改革

それでは、21年度補正予算及び22年度当初予算案の主な内容につきまして、マニフェストで掲げた3つの改革と市民にあたたかい市政を目指す5つの柱に沿って、具体的に申し上げます。

まず、市政改革の第1の柱である「長期政権のしがらみからの脱却」につきましましては、市民との協働を進める新たなプランの柱の1つに「職員の知恵と力の発揮」を掲げておりますが、「市長と市職員とのクロスワーク」の開催など市役所組織の活性化を更に進めるとともに、引き続き、管理職の削減、土地開発公社の健全

化、更には、公共施設の保全に取り組んでまいります。

第2の柱である「大型開発の見直し」では、まず、蕨駅西口再開発の第2・第3工区の見直しにつきましましては、昨年3月の市民検討委員会からの報告を踏まえ、この間、市役所内に検討委員会を設置し、次の4つの観点から、その必要性や手法など、ゼロベースで見直しの検討を行ってまいりました。

第1に、従前の第2・第3工区の計画案では約16億円の市負担が想定されておりましたが、戸田競艇からの配分金の減少など、今後も厳しい財政状況が予想されるなかで、このような莫大な財政負担を伴う事業を市が主導して実施していくことは極めて困難であることから、「市負担の大幅な軽減」というマニフェストに沿った見直しを行うこと、第2に、蕨駅周辺の整備は、まちの「顔」としての駅前広場の整備をはじめ、中心市街地のにぎわいづくり、若い世代の定住人口の促進など、重要な課題でもあることから、「市負担の大幅な削減」を前提とした事業スキーム（計画）が成り立ちうるのか、さまざま

な計画案のシミュレーションを行うこと、第3に、すでに都市計画決定が行われているなど、これまでの経緯や再開発地区協議会をはじめとする地元権利者の意向や機運にもじゅうぶん考慮すること、そして、第4は、国や県の市街地再開発事業に



▲ビックバンパトロールをする皆さん

説明会を開催したところであり、新年度では、整備計画を取りまとめるために、区内を10地区程度に分け、きめ細かな個別の意見交換会を実施するとともに、都市計画の変更に向けた関係機関との協議を進めてまいります。

第3の柱である「連続値上げ計画の中止」につきましては、マニフェストで掲げた行政経営戦略プランの計画期間である21年度は終了いたしますが、今日の厳しい経済状況などを踏まえ、22年度につきましても、一般会計から国民健康保険会計へ約10億9800万円の繰り出しを行い、引き続き、値上げせずに、市民の暮らし、健康を守ってまいります。なお、国民健康保険財政の在り方につきましては、現在、歳入・歳出の両面にわたって、国保運営協議会でご審議をいただいているところであり、その答申内容を今後の国保運営に生かしていきたいと思っております。

あつたか市政を進める 5つの柱

次に、市民にあたたかい市政を目指す5つの柱に沿って、具体的な施策について申し上げます。

まず第1の柱であります「安全安心、きれいなまちづくり」では、都市型水害に対する対策として、20年度に実施した合流区域の浸水対策基本調査の結果を受けて、北町1丁目の「わらび公園」の地下に雨水調整池を築造するための設計委託料を計上し、懸案だった浸水被害の解消に向け事業を進めてまいります。防災対策では、18年度に策定した地域防災計画を、その後の国や県の防災対策の動向を踏まえて、より現実的な計画とするための見直しを行い、市庁舎の老朽化対策では、庁舎整備検討委員会の検討結果に沿った軸耐力補強工事の施工に向けて設計を行います。学校の耐震化につきましては、21年度補正予算で、一中A棟、二中教室棟、東中特別教室棟の耐震補強工事を前倒しで行うとともに、23年度で完了する予定の学校校舎の耐震補強に引き続き、学校体育館の耐震補強を行うため、東小・西小・南小、そして塚越小において学校体育館の耐震診断を実施いたします。防犯対策では、長年にわたる市民の皆さんの防犯ボランティア活動などの努力もあって、昨年の市内の刑法犯件数は、ピーク時に比べ42%以上も減

少ししましたが、更なる対策強化のため大型店舗の駐輪場などを中心に巡回する「自転車盗難等防犯対策」を継続するほか、3月補正分と合わせて計75基の防犯灯設置を、エネルギー消費の少ないLED照明として整備し、犯罪発生の抑止を図ってまいります。なお、この75基の防犯灯を設置することで、市長就任以来345基の設置となり、4年で300基設置の目標を1年前倒しで達成することになります。通称「塚越陸橋の補修工事につきましましては、これまでJRと施工方法などについて協議を行った結果、安全確保のために高圧ケーブルの移設が必要であることや、JRが受託し工事を実施するといった方針が示されました。このことから、補修工事全体にかかわる基本協定書をJRと締結し、JRに工事委託するもので、22年度は高圧ケーブル仮設移動のための図面作成委託を実施するとともに、23年度に本工事を実施するための債務負担行為に基づく予算措置を行ってまいります。



▲中学校卒業まで拡大した子ども医療費の無料化

また、交通安全対策では、蔵駅東口の安心歩行エリアの整備と交通事故防止のための整備工事も引き続き進めてまいります。錦町土地区画整理事業につきましましては、一般会計から、21年度予算と比べて4500万



▲10月完成予定の公共公益施設「くるる」

ものであり、子育て支援とともに、蔵のまちの魅力の向上、更には、未来への活力としても期待しております。南町地区の留守家庭児童指導室では、これまでも定員を超えて児童の受け入れを行ってまいりましたが、新年度は、入室希望者が更に増える見込みであることから、南公民館を利用して2か所目を早期に整備し、希望者全員を受け入れてまいります。

また、蔵駅西口の公共公益施設「くるる」内に整備される保育所については、設置・運営事業者の選考作業を進めておりますが、23年4月からの開所に向けた整備工事に対する補助金を計上し、待機児童の解消に努めてまいります。同施設には、1階の新旭町公民館や3階の文化ホールが開設されますが、これらの施設のオープンに必要なグラウンドピアノをはじめとする備品を整備いたします。更には、西公民館の集会室では可動式の舞台の設置と音響の改修を行うほか、蔵の誇るべき、生涯学習の一大イベントである、市内7館の公民館で行われる生涯学習フェスティバルに対する助成の拡充。南公民館



▶3月19日から利用できるようになった駅西口エレベーター

で春に開催される「南町文化展」に対する新たな助成など、これまで以上に生涯学習に対する支援を行ってまいります。

幼稚園児補助金につきましては、5歳児を対象にマニフェスト通り4万円に引き上げ、妊婦一般健康診査では、健診14回の公費負担継続に加え超音波検査の公費負担を1回から4回に拡大いたします。更に、2歳児を対象に、定期健診後の2回目の歯のフッ素塗布を無料で受けられるようにいたします。

このほか、富士見第2公園内のテニスコートを人工芝に改修し、多くのスポーツ愛好家が利用できるよう整備いたします。

第3の柱である「高齢者・障害者をはじめ、市民誰もが健康に暮らせるまちづくり」では、まず、平成21年度初めに社会福祉協議会と社会福祉事業団の合併によって、地域福祉のネットワークと福祉事業の専門的

な人材やノウハウを備えた、充実したサービス体制が敷かれたところですが、新年度からは、この充実した体制の下で、更に、老人介護支援センターと地域包括支援センターの業務統合による、支援活動が展開できる

よう見直しを行い、業務集約の上、社会福祉協議会が行えるようにいたします。それにより、これまで以上に、きめ細かな地域福祉サービスが推進できるものと考えております。

また、新たに、総合社会福祉センターにおいて、ハート松原やレインポー松原に通所しているかたがたと、15歳以上の知的な障害のあるかたを対象に夜間保護事業、蔵版のシヨートステイ事業を実施し、介護に当たられるご家族のかたがたを支援する事業を行ってまいります。

蔵市立病院につきましましては、17年度から慢性的な赤字経営に陥っている深刻な経営状況を打開するため、昨年3月に策定した「蔵市立病院経営改革プラン」に基づき、市長として病院長とともに、不転の決意で経営改革に取り組んでまいりました。医療スタッフをはじめ、職員1人1人の意識改革と明確な目標の設定に取り組み、一丸となって改善に努め

円、私が市長に就任する前の19年度予算と比べて1億1000万円増の8億7600万円の繰り出しを行い、家屋移転や街路築造のほか、住民参加によるワークショップで検討されてきた「錦町7号公園」の整備など、新しいまちづくりに向けた事業の推進を図ってまいります。

第2の柱であります「子育て支援、文化・教育・スポーツの振興」では、マニフェストで掲げた小学校での35人学級の実施につきましましては、まず、小学校3学年・4学年を対象に市独自に35人程度学級を実施いたします。また、21年度には、「きこえとことば」の通級指導教室を東小学校に増設いたしました。22年度は、発達障害・情緒障害の通級指導教室を中央小学校に整備してまいります。

子どもの医療費無料化につきましては、本年10月より、通院につきましても、中学校卒業まで拡大し、マニフェストを完全実施してまいります。この施策は、県南4市では初めての

た結果、整形外科の常勤医師の確保は行えなかったものの、内科常勤医師1名を確保するとともに、新たに、地域医療連携担当を設置して、地域の医療機関との連携を進めることや、時間外の救急患者の積極的な受け入れなどの努力を行うことにより、入院・外来とも患者数が大幅に増え、昨年4月から1月までの10か月間で、患者数が1万1401名、病院収益で約2億7000万円、率にして約16%伸ばすことができました。

しかしながら、これはまだ、経営改革の第一歩に過ぎず、市立病院経営改革プランの2年目となる22年度も、総力を挙げて市立病院の経営改革を推進してまいりますので、市議会をはじめ、市民の皆さんの更なるご支援を心よりお願い申し上げます。

このほか、65歳以上の在宅で要介護度4以上の低所得者のかたを対象に、新たに、在宅要介護高齢者手当制度を設け、月額5000円を支給するほか、蔵駅のエレベーター設置につきましましては、西口に続いて東口にエレベーターを設置して、駅のバリアフリー化を推進します。

第4の柱である「元気な商店街、元気な蔵づくり」では、先ほど申し上げた緊急経済対策に加えて、市制施行50周年記念事業として実施した、「藤まつり」を引き続き観光事業として実施するほか、「西口みゆき商店街」が行うLEDの街路灯整備事業に対する補助、また、年度末までに

策定される、「中心市街地活性化基本計画」の、今後の認定申請を円滑に進めるための委託を含め、商工業活性化支援に取り組んでまいります。

第5の柱であります「みんなであつくる市民参加のまちづくり」では、先ほど申し上げた、蕨の優れた地域力を生かした協働型のまちづくりを進めるための新たなプランを、8月をめどに策定するとともに、町会に対する安全安心きれいなまちづくり交付金につきましては、その原資となる古紙などの売り払い代金が、回収量の減少や価格の下落などにより、大幅に減少する見込みであります。町会活動の重要性を踏まえ、前年同額の1700万円を予算計上いたしました。

また、19年度、20年度に引き続き、市長タウンミーティングを開催するほか、各種審議会での市民公募を進めてまいります。「わらび公園」の地下に雨水調整池が築造された後の公園再生に向けて、多くの市民のご意見を伺いながら、基本計画を策定し、皆さんに利用され親しまれる「公園づくり」を進めてまいります。

更には、昭和60年9月9日の定例市議会において、核兵器のない世界の平和を希求する市民の心を結集して平



和都市宣言が議決されてから25年が経過することを記念して、平和都市宣言塔を設置したいと考えております。以上が、平成22年度の予算編成方針並びに主な事業内容であります。

7万市民の幸せのため 燃える心で市政運営

ところで、2月12日に開会したバスケーバー冬季オリンピックは、2大会ぶりに日本のお家芸ともいわれ、男子スピードスケート500メートルで、長島圭一郎選手が銀メダル、そして同じく加藤条治選手が銅メダルを獲得したほか、男子フィギュアでは高橋大輔選手が、大けがを克服して日本人初となる銅メダルを獲得するなど、多くの種目で日本選手が活躍する姿や、世界のトップアスリートの華麗なる姿などが連日繰り広げられ、毎日、感動を与えてくれています。

今回のバスケーバー冬季オリンピック大会のテーマは、「With Glowing Heats」(燃える心とともに)と、お聞きしておりますが、大会のテーマのように、私は、日本一小さな市の市長として、燃えるような熱い情熱を持って、市民の皆さんと心を通わせ力を合わせながら、7万市民の幸せと生まれ育ったふるさと蕨の発展のために、更に、全力を尽くす決意であります。議員並びに市民の皆さんのいっそうのお力添えを賜りますよう心からお願い申し上げます。平成22年度の施政方針といたします。

でされた 議案の 議決 ◎今議案

平成22年第1回蕨市議会定例会に市長から提出され、可決された議案は31件です。ここでは、その議案名とあらたに制定された条例や改正された条例をご紹介します。

議案名

●新規条例

- ・蕨市消防長の任命資格を定める条例
- ・蕨市在宅要介護高齢者手当支給条例
- ・蕨市立文化ホールくるる設置及び管理条例

●一部を改正する条例

- ・職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例の一部を改正する条例
- ・職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
- ・蕨市子ども医療費支給に関する条例の一部を改正する条例
- ・蕨市保育の実施に関する条例の一部を改正する条例
- ・蕨市総合社会福祉センター設置及び管理条例の一部を改正する条例
- ・蕨市私立幼稚園児補助金支給条例の一部を改正する条例
- ・蕨市立公民館設置及び管理等に関する条例の一部を改正する条例

●平成21年度補正予算

- ・蕨市一般会計補正予算(第5号)
- ・蕨市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)
- ・蕨市老人保健医療特別会計補正予算(第2号)
- ・蕨市公共下水道事業特別会計補正予算(第1号)

●平成22年度当初予算

- ・蕨市一般会計予算(修正可決)
- ・蕨市国民健康保険特別会計予算
- ・蕨市老人保健医療特別会計予算
- ・蕨市公共下水道事業特別会計予算
- ・蕨都市計画事業錦町土地区画整理事業特別会計予算
- ・蕨都市計画事業中央第一土地区画整理事業特別会計予算
- ・蕨市介護保険特別会計予算
- ・蕨市後期高齢者医療特別会計予算
- ・蕨市立病院事業会計予算
- ・蕨市水道事業会計予算

●その他

- ・市道路線の廃止について
- ・市道路線の認定について